

## II. 一般社団法人日本工作機械工業会の活動

### 1. 概 要

#### (1) 定時総会

2016年5月25日(水)に東京都千代田区のホテルニューオータニで、一般社団法人として第5回となる定時総会を開催し、会員96社中93社(うち書面または代理人による議決権の行使35社)が出席した。同総会では、花木会長が議長となり、2015年度事業報告、同年度収支決算、2016年度事業計画案、同年度会費負担案、同年度収支予算案、補欠理事の選任を原案通り承認した。

総会終了後、同所において、久保智彰氏(ロボット革命イニシアティブ協議会・事務局長)による「ロボット革命が目指す日本の未来」と題する講演会を開催した。

#### (2) 理事会

当会の事業執行機関である理事会は、理事会運営の原則に基づき、4月に決算理事会、7月、9月、12月に定例理事会、3月に予算理事会を開催した。

理事会では事業報告案及び収支予算案、決算報告を始め、平成29年度税制改正要望、新規入会等について審議した。

#### (3) 委員会・研究会

各事業の遂行については、総合企画、技術、経営、市場調査、国際、環境安全、見本市、輸出管理の8常設委員会及び人材確保・周知研究会が中心となり、それぞれ関係する事業を以下の通り実施した。

##### ① 総合企画委員会

新規入会について審議し、その結果を理事会に上程したほか、2016年度会員懇談会(京都府)並びにJIMTOF・ToKyo 2016工作機械国際懇親パーティーの企画・立案に当たった。

##### ② 技術委員会

研究開発部会、標準化部会が中心となり、アディティブ・マニファクチャリング(Additive Manufacturing)の技術動向調査、工作機械重要特許Webリストの構築、ISOへの積極的参画及び第17回国際工作機械技術者会議等の事業を実施した。

更に、「工作機械産業ビジョン2020」の施策である産学連携による先端技術と標準化の研究開発については、「加工システム研究開発機構」において「新構造材料適用省エネ型工作機械の研究開発」並びに「工作精度試験方法通則の国際標準化」事業との連携を図った。

### ③ 経営委員会

平成29年度税制改正要望については、「第4次産業革命に係る設備投資減税の創設」、「研究開発税制の延長・拡充」の2項目を最重点要望項目として取りまとめ、関係当局等へ要望活動を行った。更に、工作機械工業の各種経営指標について作成・分析して業界の「経営状況調査」・「収益状況集計」として公表したほか、労務環境に関する調査分析を実施した。

### ④ 市場調査委員会

工作機械の需要動向に関する調査分析の他、工作機械ユーザー等を対象としたメンテナンス講習会を大阪、長岡、名古屋、東京の4地域で開催した。また、設備投資促進に資する政府の予算措置に関する要望を取りまとめた。更に、国内工作機械市場の潜在需要を探るべく、ユーザー企業及び大学研究室を訪問してヒヤリング調査を実施した。

### ⑤ 国際委員会

前年度に引き続き、自動車産業の世界動向を研究テーマとして、日本、欧州、米国、中国等における環境規制動向と主要自動車メーカーの戦略に関する概況調査を行った。

### ⑥ 環境安全委員会

「工作機械産業の環境自主行動計画」のフォローアップに加え、環境活動マニュアルのデータベース化を行った。更に、環境活動マニュアル(第10版)の発行や会員企業の環境活動を診断する環境活動状況問診票フォーマットの見直しを行うなど会員の環境活動を支援した。また、省エネ推進に加え、労働安全をテーマとした講演会及び施設見学を実施し、会員企業の環境・安全活動の啓発に努めた。

### ⑦ 見本市委員会

JIMTOF・Tokyo 2016の盛会と円滑なる運営を期して、搬入出日の調整、企画展示の立案などに取り組んだ。その結果、同展の総来場者数(重複無し)は147,602人(前回比8.4%増)、うち、海外来場者数は11,533人(前回比10.1%増)となり、それぞれ完全登録制を採用した1996年以降で最高を記録するなど、国際化の面でも大いに前進した。

また、会期終了後に会員出展者アンケートを実施し、次回JIMTOF・Tokyo 2018に向けた意見・改善事項を取りまとめた。

### ⑧ 輸出管理委員会

2017年6月1日から輸出管理上の評価基準の一部が変更される為、その対応策について協議した。また、既に評価基準が変更されているアメリカの審査運用の実情を把握するため、米国の工作機械メーカーが海外生産する際の審査運用について調査した。

更に、「工作機械の輸出管理講習会」を大阪、岡山、金沢、名古屋、東京の5都市で開催し、評価基準の変更内容及びその対応方法などについて説明し、輸出管理に関する業界内の理解向上に努めた。

## ⑨ 選考委員会

第28回理事会において設置された選考委員会は、次期役員候補及び会長候補について、3回にわたり鋭意検討を重ねた。その結果、次期会長候補として飯村幸生氏（東芝機械(株)・取締役社長）が推薦され、次期役員候補の審議結果とともに、第29回理事会において報告・了承された。

## ⑩ 人材確保・周知研究会

次世代の工作機械産業を担う若く優秀な人材の確保・育成を目的とする人材確保・周知研究会では、学生を対象とした工作機械トップセミナーや、企業の新人社員を対象とした工作機械基礎講座を企画・立案を行い、所要の事業を積極的に実施し、学生に対する業界PRや若手エンジニアの育成に努めた。JIMTOF会期中に開催した工作機械トップセミナーでは全国74の大学、高専、工業高校から、600名の参加者を得ることが出来た。

## (4) その他

### ① 委託事業

- (イ) JIS原案作成事業（(一財)日本規格協会）
- (ロ) 工作精度試験方法通則国際標準化事業（(株)三菱総合研究所）
- (ハ) 国際幹事等国際会議派遣事業（(株)三菱総合研究所）

### ② 補助事業

- (イ) 新構造材料適用省エネ型工作機械研究開発事業（(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構）

### ③ 国際交流

- (イ) CCMT 2016（2016年4月・中国 上海市）
- (ロ) SIMTOS 2016（2016年4月・韓国 ソウル市）
- (ハ) MTA ベトナム2016（2016年7月・ベトナム ホーチミン市）
- (ニ) IMTS 2016（2016年9月・アメリカ シカゴ市）
- (ホ) JIMTOF・Tokyo 2016（2016年11月・東京）
- (ヘ) TMBA 2016（2016年11月・台湾 台中市）
- (ト) IMTEX 2017（2017年1月・インド バンガロール市）
- (チ) TIMTOS 2017（2017年3月・台湾 台北市）

### ④ 広報活動

月例記者発表を実施した。また、下記出版物を発行したほか、メールマガジンの配信等、広報活動に努めた。

- (イ) 機関誌「工作機械」
- (ロ) マシンツールワールド

(ハ) 日本の工作機械産業 (和・英)

(ニ) 工作機械統計要覧

(ホ) その他出版物

⑤ 会員相互の親睦強化

主として下記行事を開催した。

(イ) 第57回野球大会 (2016年8月4日(木)、5日(金)・東京)

(ロ) 2017年新年賀詞交歓会 (2017年1月10日(火)・東京)

(ハ) 第11回会員交流会 (2017年2月22日(水)・茨城県日立市)

(ニ) 日工会ゴルフ会 (2016年4月23日(土)・滋賀県/琵琶湖カントリー倶楽部、5月26日(木)・静岡県/ファイブハンドレッドクラブ、2016年7月15日(金)・滋賀県/琵琶湖カントリー倶楽部、10月1日(土)・愛知県/中京ゴルフ倶楽部、12月2日(金)・静岡県/ファイブハンドレッドクラブ、3月25日(土)・滋賀県/琵琶湖カントリー倶楽部)